

鳴立庵だより

鳴立庵とは、江戸時代から続く俳諧道場でございます。

初代庵主大淀三千風が開き、現在では京都の落柿舎、滋賀の無名庵と並び日本三大俳諧道場と呼ばれているでございます。



鳴立庵大使「えんいくん」

今月の俳句

芒種の雨やまほろばの

田を満たす

東京都東久留米市 新農 健

今月の短歌

夕暮の底で玉葱きざみつつ

祖母はわたしを母の名で呼ぶ

石川県金沢市 渡邊 美愛

「芒種」は二十四節気の一つで、六月六日頃。稲を植えるに相応しい日とされている。「芒種の雨」はその頃に降る雨である。また「まほろば」は本来、棲みやすい場所の謂。「倭は国のまほろば」たまたなづく青垣／山隠れる倭しうるわし」といった古歌もある。そんな「芒種の雨」が日本中の素晴らしい「田」を満たすという、古代以来の日本人の理想的な景を、やや古典的な言い回しで詠んだ句である。「七音・五音・五音」という少々変わった音律も楽しい。

(鳴立庵庵主 本井 英

祖母は台所で料理中です。夕食のために玉葱を刻んでいます。一家の食事を切り仕切りながら長い歳月を過ごしてきたのでしょうか。玉葱を刻むのも馴れたもの、自動化されています。すると、料理という身が覚えた感覚がはたらきます。娘が子どもだった頃の自分にもどって、孫である作者を呼んでしまうのです。それは老齢のせいであるかもしれませんが、祖母にとっては懐かしい記憶が呼び覚まされる一時なのでしょう。「夕暮の底」という薄暗い場面設定が効果的で、混然とした夕暮れの気分を捉えています。

(西行祭選者 今井 恵子)

講座の申込み・問合せ 鳴立庵 ☎(61)6926

講師 対象 定員 費用 持ち物

講座名	日程	時間	備考
絨毯展示販売	6月7日(土)～6月11日(水)	10:00～16:00	遊牧民のキリム&部族絨毯展示販売 ～西アジア遊牧民の毛織物にみる「用の美」～ 入庵料
寄席	6月14日(土)	開場13:00 開演13:30	演目 お楽しみ・締め込み・夏どろ 演者 柳屋 お三治、三笑亭 空巢、桂 三十助 定30人 費800円(入庵料込)
座禅	6月21日(土)	13:30～14:30	姿勢・呼吸・心を整えます 講豊田 素道氏(慶林寺住職) 定10人 費500円(入庵料込)
伝筆	6月22日(日)	10:30～正午	温かみのある文字が書けるようになる筆文字教室 講認定講師わでん伝筆マスター 宮前 礼子氏 対中学生以上 定10人 費3,850円(材料費込)
花の会	6月25日(水)	14:00～16:00	ひまわりで初夏を爽やかに彩るアレンジ 講府川 葉月氏 定18人 費2,500円(入庵料込) 持はさみ、タオル、持ち帰り袋
虎が雨句会	6月29日(日)	10:00～14:00	本井庵主が主催する虎御前供養会 お虎さんに自作の俳句をプレゼント 費2,000円(入庵料込)
茶と遊ぶ	7月5日(土)	10:00～正午	みちかぜ茶会 ～夏に楽しむお茶色々～ 講高野 幸代氏 定10人 費2,000円(お茶菓子付き・入庵料込)

「めいど いん おおいそ」 登録産品紹介

問大磯らしい潤いづくり協議会 (大磯町商工会)
☎(61)0871



【谷柳嶋屋】

問合せ先：☎(61)0149



東海道大磯宿

【肉のハマダ】

問合せ先：☎(71)0250



やきとり

【榎友月堂】

問合せ先：☎(31)1897



高麗山